

## がん患者とその家族向け がん治療副作用予測と症状管理 および栄養摂取サポート事業

### 登壇者プロフィール



### 氏名: 牧原 正樹

役職: 代表

名古屋大学大学院工学研究科(修士)卒業・グロービス経営大学院にて経営学修士(MBA)を取得・自動車会社にてエンジニアとして、デジタルツインを用いた開発および商品企画を経験。その後、IT系企業にて事業企画を担当。身内のがん闘病経験から、自宅におけるがん治療期の負担低減に関わるサービスの開発を志し、医師、薬剤師、がん学療法看護認定看護師、がん病態栄養専門管理栄養士と本プロジェクトを組成

日本のがん患者は年100万人規模で増加しており年々増加している。中でも、退院後の生活における治療副作用と栄養に関する問題は、食思不振、味覚障害など様々である。それらは、患者の体重減少を招き、QOLや生存率の悪化にもつながっている。一方、自宅における栄養の対策について、相談できる専門家に限られており、それらの知見は行き渡っていない。

我々は、通院でがん剤を行う患者に対して、がん種、抗がん剤、術式、個人特性等を用いて、個人のデジタルモデルを構築する。それらモデルを用いたシミュレーションから、副作用を事前に予測。その結果を用いて、一人ひとりに適切な症状管理および栄養摂取の介入を実施し、治療効率を向上させ、患者と家族の心理的負担を軽減する

### 団体概要

本事業は経営学修士をもつ医師、薬剤師、エンジニアといった専門家が協力し、開発してきた事業である。メンバーが専門分野を互いに越境し、医療とデジタルが深く関係できるチームとなっている。リーダーの牧原はデジタルツインに関するモデル化経験とビジネス構築経験を持ち、本事業を強く推進できると確信している。